

令和2年度 全国高校サッカー選手権大会・東京都1次予選 実施要項

【1】開催に当たって

授業、部活動が再開していることを前提に大会開催での感染者を出さないこと、生徒、関係者の健康及び安全第一を最優先とする。開催に伴う様々な条件や注意事項については文科省、スポーツ庁、東京都教育委員会、JFA、高体連などからの通達を元に情勢に応じて具体的に作成し進めていく。

【2】日程

9月以降の開催とする。情勢により後ろにずれることもり、下記日程案は9月第1週から開催できた場合の案であり変更もあり得る。また、1回戦を2週にかけて取っているが、変更した日程次第では1週になる可能性もある。日程変更の判断期限は7月中とする。

【1回戦】 9月5日(土) 6日(日) 12日(土) 13日(日)

【準決勝】 9月19日(土) 20日(日) 21日(祝) 予備日:9月22日(祝)

【決勝】 9月26日(土) 27日(日) 予備日:10月3日(土) 4日(日)

【3】大会日数

都大会2次予選の開催時期変更もあり得る中、どのような状況になっても日程的に融通が利きやすく、安全が担保されやすい開催日数を最小限の3日間(3試合)とする。

【4】開催条件

新型コロナウイルス感染症の拡大状況や社会情勢を鑑みて、感染症予防対策ガイドラインを作成し、下記感染症予防対策を必要に応じて講じる。具体的な感染症予防対策事項は7月下旬開催予定の地区抽選会までに最終決定する。(日程変更した場合は変更後の地区抽選会日までとする。)

(対策例)

- ・参加チーム、大会関係者用(派遣審判員含む)の感染予防チェックリストを作成し徹底する。
 - ・感染予防対策チェックリストを元に参加チーム全てに毎試合参加同意書の提出を求める。
 - ・試合当日、当該チーム、運営役員に健康チェックシート(個人)の提出を義務付ける。
 - ・各チーム、会場運営(高体連役員)からそれぞれ1名感染予防対策責任者を設置する。
 - ・会場入りできるのは、選手・スタッフを含めて1チーム上限を30名とする。
 - ・本部役員及び補助役員は上限合わせて6名程度とする。
- (試合前の会場設営などはその限りではない。感染予防責任者や派遣審判員も含まれない。)
- ・本部役員及び補助役員は、滞在時間が長時間に及ぶ場合、人員の入れ替え措置を取る。当該校で賄えない

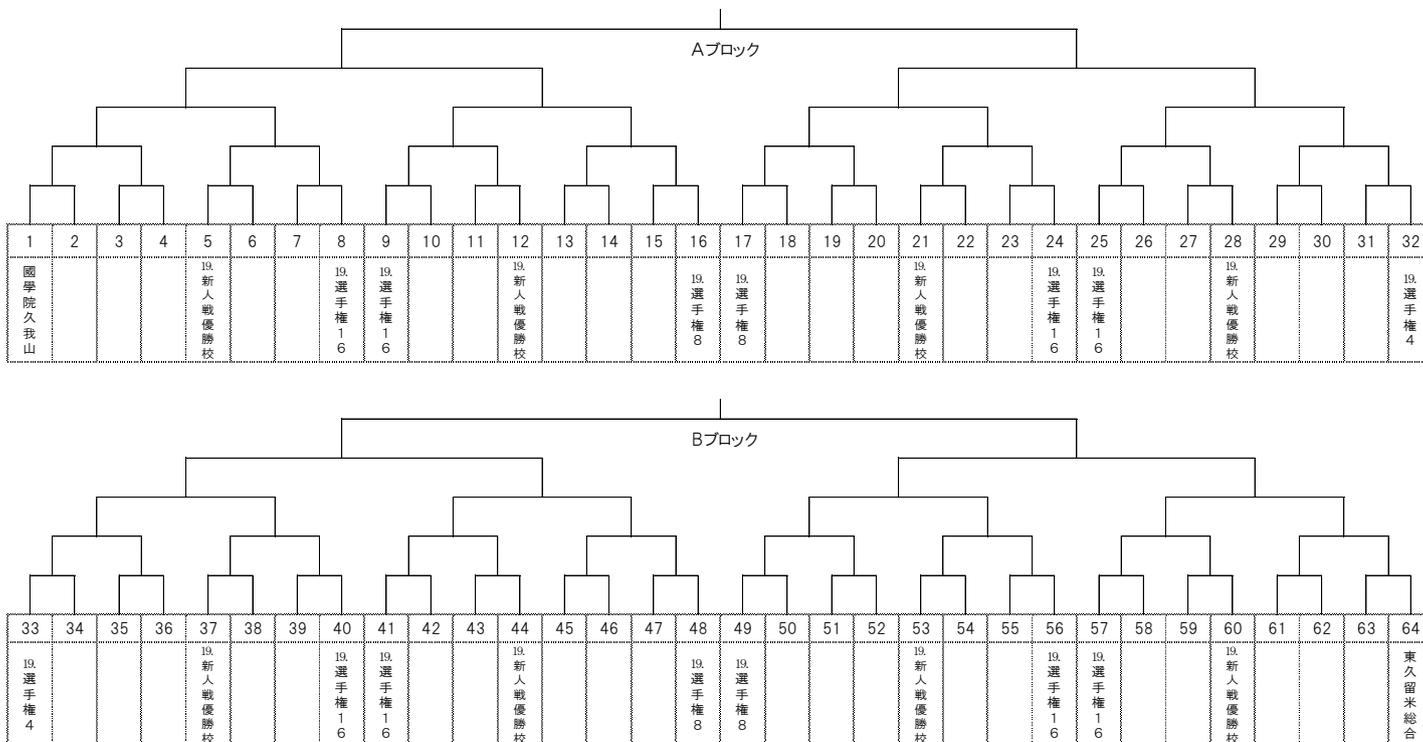
場合は、協力校を募り運営をする。

- ・無観客で試合を行う。(応援無し)
- ・試合時間を準決勝まで30分ハーフ、決勝は40分ハーフとする。(インターバル10分)
- ・試合時間に応じて各会場の上限可能試合数を決めてゆとりを持たせた会場運営を行う。
- ・担架要員は作らない。(ボールパーソンは当該校から従来通り2名ずつ出す。)
- ・帯同審判員(有資格者)は試合に出場した、または出場する予定の選手は行わない。
- ・事情により帯同審判員を出せない場合は、運営側で審判割り当てを配慮する。
- ・会場用掲示物、感染対策用の物品は東京都高体連サッカー専門部で準備し会場校へ支給する。

【5】 大会開催までのスケジュール

- 6月30日(火) 1次予選参加申込書提出〆切
- 7月初旬 感染症予防対策ガイドライン配布
- 7月6日(月) 各地区会場エントリー表配布
- 7月14日(火) 各地区会場校集約
- 7月末 各地区抽選会 1次予選打ち合わせ
※ 感染症予防対策事項決定
- 7月中 1次予選・抽選会延期等の判断
- 8月中 各地区大会準備(感染症対策事項含)
- 9月第1週～ 大会開始予定

【6】 2次予選参加校数 64チーム



※ 2019年度全国選手権において成績上位の國學院久我山高校をAブロックとする。

【7】 大会形式

地区予選による2次予選代表校決定戦

【8】 免除校・シード校

(1) 免除校 26チーム

【2019年度選手権ベスト16】 16チーム

國學院久我山 東久留米総合 東海大高輪台 帝京 関東第一 成立 東京朝鮮 堀越
多摩大目黒 駒澤大学 日本学園 国士舘 大成 修徳 日大豊山 実践学園

【2019年度新人戦優勝校】 8チーム

葛飾野 駒込 東京成徳 暁星 石神井 日大三 明星学園 国分寺

【T1・T2シード】 1チーム

早稲田実業

【国体強化校】 1チーム + α

大森学園

※ 国体の有無により変更する可能性あり

(2) 1次予選シード校ABC 55チーム

2019年度新人戦準優勝 Aシード: 8チーム

2019年度新人戦ベスト4 Bシード: 16チーム

2019年度新人戦ベスト8 Cシード 31チーム

Aシード 【新人戦準優勝校】 8チーム

1地区 紅葉川 2地区 学習院 3地区 大東文化第一 4地区 東工大附属
5地区 武蔵丘 6地区 駒場 7地区 立川 8地区 創価

Bシード 【新人戦ベスト4】 16チーム

1地区 小松川 東 2地区 本郷 文京 3地区 早稲田 國學院
4地区 東京実業 正則学園 5地区 豊多摩 早大学院 6地区 学大附属 日大櫻丘
7地区 日野台 三鷹中等 8地区 東海大菅生 拓大一

Cシード 【新人戦ベスト8】 31チーム

1地区 南葛飾 葛西南 深川 かえつ有明 2地区 足立 豊島学院 京華 足立学園
3地区 青山 駿台学園 海城 城北 4地区 麻布 明治学院 攻玉社 東京
5地区 日大二 保谷 日大鶴ヶ丘 大泉 6地区 東京農大一 野津田 小川 目黒
7地区 明中八王子 桐朋 明大明治 八王子 8地区 久留米西 東大和南 東大和

【9】 地区ブロック数

- (1) 1次予選勝ち上がりブロック数 ※ 国体の有無により変更する可能性あり

38ブロック …… 2次予選参加校数64チーム – 26チーム (1次予選免除校数)

- (2) 各地区ブロック配置

〈 決定における優先事項 〉

ア) 各地区、試合日程が3日間で終わるラインで調節する。

イ) ア) でバランスが取れない場合は、参加校数が少ない2つの地区を4ブロックとし、他を5ブロックとする。その場合、Aシードを準決勝スタートのブロック(7チーム山)として調節する。

ウ) ブロック数を減らす地区の参加校数が複数の地区で同じになった場合は加盟校数の数で差をつける。

【10】 その他

- ・ 2次予選参加校のガイドブックは例年通り作成をする予定だが、スケジュールは未定とする。
- ・ 2次予選抽選会の実施時期や開催方法等は7月中に決定する。